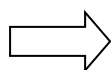


## 京都市における不登校特例校（京都市立洛風中学校）の取組等について

### 1 不登校特例校創設までの主な取組

- 昭和27年：教育研究所にて教育相談を開始
- 昭和37年：生徒福祉課を設置
- 昭和38年：「京都市カウンセリングセンター」に組織改編
- 平成元年：「山のおじさん事業」を開始（不登校の子どもたちを対象に、自然の中で宿泊を伴うキャンプ生活を実施）
- 平成4年：「適応指導教室 ふれあい教室（後のふれあいの杜）」を開設
- 平成7年：「スクールカウンセラー」の配置を開始
- 平成12年：学生ボランティア「ふれあいアシスタント」（ふれあいの杜通級児童生徒の支援）の派遣を開始
- 平成13年：学生ボランティア「学びのパートナー」（別室登校児童生徒の支援）の派遣を開始
- 平成15年：教育委員会で取り組んできた「心の居場所づくり推進事業」の新たな展開として、生徒指導、カウンセリング、ふれあいの杜を一体化した全国初の専門機関「京都市教育相談総合センター（こども相談センターパトナ）」を開設



このような取組を続けていく中、

- ・不登校生徒数の推移（横ばいの状態）
- ・不登校傾向の子どもたちがどのように社会とつながっていくか  
＝進路問題（将来の社会的自立）

などが課題となり、不登校生徒の新たな選択肢・学びと社会とのつながりの場の創造に向け、新たな中学校の設置に向けた検討を本格的に開始した。

### 2 不登校特例校の創設

- 新たな中学校の設置を検討するにあたり、当時の法律や学習指導要領の枠を超えての学校づくりが必要不可欠であり、また、教員定数も確保できることから「構造改革特区制度」を活用して具体的な検討を進めた。
- 平成15年10月に「不登校児童生徒対象学校設置に係る教育課程弾力化事業」を活用した「京都市不登校生徒学習支援特区」の認定申請をし、同年11月に認定された。
- 平成16年1月「不登校生徒学習支援特区中学校開設準備室」設置
  - ・新しい教育課程や学習内容の編成
  - ・スクールカウンセラー・学生ボランティアを中心とした教育相談や支援体制の確立
  - ・転入学方法の検討
  - ・説明会の開催 等
- 平成16年10月「京都市立洛風中学校」開校
- 平成19年4月「京都市立洛友中学校」開校（不登校特例校と夜間中学を併設）  
（参考）洛風中学校と洛友中学校の概要

洛風中学校	学校名	洛友中学校
京都市中京区姉小路通東洞院東入 曇華院前町706-3	所在地	京都市下京区大宮通綾小路下る 綾大宮町51-2
40名程度	定員	15名程度
9:30~15:20	活動時間	13:30~17:30（18:20）
教科の枠を超えた独自教科	主な特色	午後からの登校、夜間部との合同授業・活動

### 3 京都市立洛風中学校について

#### (1) 概要

平成31年度

スクールビジョン（教育構想図）

洛風中学校

#### 学校教育目標

仲間とともに

自分が納得して学び直す 心を開いて遊び語り合う 自信を取り戻す

学習の実践

#### 目指す生徒像

一夢に向かって なりたい自分になる  
主体的に生きる・自立できる・自己実現できる

生徒の育成

新たなかたちの「学び」と「育ち」の場の創造

い・き・が・い …「生きがい・行きがい・活きがい」を発見できる学校

自己肯定感の回復

進路展望の拡大

#### 学 習 支 援

- 学ぶ意欲を取り戻す元気（エネルギー）の芽生えへの支援
- 学校から社会へ通じる道（本当にやりたいこと）探しへの支援
- 集団の中で自分を見つめる人間関係（つながり）づくりへの支援

自立への動機付け・そのための具体的な働きかけ

#### 柔軟な教育課程の編成・カリキュラムマネジメント

##### 基礎基本の定着

- ・少人数授業
- ・個々の学力に応じた指導の工夫
- ・個別の指導計画
- ・クロスカリキュラムの充実
- ・教科等の統合  
(科学の時間・創造工房)

##### 体験的な学習

- ・京都の特性を活かした芸術やものづくり
- ・職場体験  
(生き方探究チャレンジ事業)
- ・高校・専門学校の体験入学
- ・自然体験（花背山の家合宿など）

#### 教育相談体制の充実

教職員・保護者・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー  
総合育成支援員・学生ボランティア「洛風パル」  
一体となったサポート体制

保護者・教職員の連携の充実

不登校相談支援センター・洛友中学校

#### 協力者によるサポート

- ・ボランティア ・民間団体
- ・外部講師
- ・各種事業所、大学、高校、専門学校

洛々ふれあい会議

就学検討会

京都市児童生徒登校支援連携

不登校支援ネット

#### こどもパトナとの連携

- ・生徒指導課
- ・カウンセリングセンター
- ・ふれあいの杜

不登校生徒への支援の拡大

(2) 教職員数

● 20名

〔 校長1名, 教頭1名, 教諭(指導教諭・再任用含む)12名, 養護(常勤)1名, 非常勤講師3名, 事務職員1名, 専門主事1名 〕

※その他, 以下の職員の配置もあり。

- ・スクールカウンセラー3名(週3日 1日1名 交代制)
- ・スクールソーシャルワーカー1名(週1日)
- ・総合育成支援員1名
- ・洛風パル(学生ボランティア)

(3) 教育課程

●年間総授業時数: 770単位時間(通常1,015単位時間)

〔 国語105, 数学105, 英語105, 科学の時間(社会・理科)70, 創造工房(音楽・美術・技術家庭)70, 保健体育70, 風夢風夢(総合的な学習の時間)70, 選択教科35, ヒューマン・タイム(道徳・特別活動)140 〕

(4) 特色ある教育活動

- 科学の時間: 社会と理科を統合し, それぞれの教科の観点を生かし, 科学的な見方・考え方の基礎を養う。
- 創造工房: 音楽・美術・技術家庭の3教科が有機的に関わる題材を設定し, 「みる・きく・ふれる」などの感覚を活用した体験活動と, 自身の感性を生かした「描く・つくる・歌う」などの自己表現を伴う創造活動を展開。
- その他, 「風夢風夢(総合的な学習の時間)」, 「ヒューマン・タイム(道徳・特別活動・学活)」を展開。

(5) 生徒数(令和元年5月1日現在)

● 40名

〔 1年生 9名(男子4名, 女子 5名)  
2年生 9名(男子4名, 女子 5名)  
3年生 22名(男子8名, 女子14名) 〕

(6) 転入学の流れ(概要)

- 洛風中学校・洛友中学校(以下, 「不登校特例校」という。)への転入学に関する相談・申請等については, 教育委員会に設置している「不登校相談支援センター」が窓口となる。
- 不登校相談支援センターへの相談・申請は, 学校を通じて行う必要がある。
- 転入学の次期は, 前期(5月1日)と後期(10月1日)の2回設定。ただし, 前期で定員を上回った場合は, 原則, 後期の募集を行わない。

<前期転入学の主なスケジュール>

- 11月上旬 不登校特例校転入学希望者募集の通知  
※学校を通じて募集
- ～12月中旬 不登校特例校転入学希望に関する相談申請期限
- 12月中旬 「授業体験」の実施通知  
※学校を通じて申し込み
- 2月 「授業体験」の実施(全4日間, 1日あたり2時間程度)
- 2月末頃 4月上旬実施の「体験入学」への参加意向確認

3月末頃	個別面談会の実施
4月上旬	転入学に係る手続きについての通知
4月上旬	「体験入学」の実施（全3日間，原則全日程に参加必要）
4月中下旬	「転入学申請書」の提出期限 ※学校を通じて申請。申請にあたっては学校長の副申請が必要。
4月中下旬	「就学検討部会」での検討，転入学の決定（通知）
5月1日	転入学日

#### 4 今後に向けて

##### (1) 生徒の変容について

- 教職員や友達とのコミュニケーション
- 自信や自己肯定感の回復

##### (2) 進路について

	平成30年度	平成16～30年度(人数)	平成16～30年度(割合)
公立(全)	2名	36名	9.4%
公立(定・通)	3名	59名	15.4%
私立(全)・専門	10名	133名	34.7%
私立(定・通・単)	12名	136名	35.5%
その他	2名	19名	5.0%

##### (3) その他

- 多様な困りを抱えた生徒の増加とそれに伴う教職員の理解と専門性の育成
- 不登校傾向にある生徒への手立て

#### 【参考資料】

- 「京都市立洛風中学校 学校案内」
- 「不登校相談支援センター 利用案内」

#### 【子どもたちの活動の様子】



(地元の学区運動会での様子)



(4月の着任式・始業式の様子)